

保健体育科学習指導案

場 所 附 属 中 学 校 体 育 館

対 象 2 年 5 組 3 6 人

指 導 者 教 諭 内 田 し ず か

1 単元 ダンス (現代的なリズムのダンス)

2 本校保健体育科の目標と本単元で育む資質・能力とのつながり

知識及び技能	運動との多様な関わり方や個人生活における健康・安全を追究しながら、豊かなスポーツライフを実現していくための知識・技能を身に付けるようにする。
思考力, 判断力, 表現力等	運動や健康・安全について発見した自他の課題の解決策を見出すために知識・技能を活用し, 合理的な解決を図るための必要な力を養う。
学びに向かう力, 人間性等	運動と多様に関わり, 仲間と協働しながら, 生涯にわたって運動に親しみ, 明るく豊かな生活を営む態度を養う。

まず、知識及び技能において、本校保健体育科の目標を達成するために、本単元では、現代的なリズムのダンスの特性や由来、表現の仕方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。さらに、変化のある動きを組み合わせながらリズムに乗って体幹部（重心部）を中心に全身で弾んで続けて踊ることができるようにする。そうすることによって、現代的なリズムのダンスの魅力を感じたり、踊る楽しさや喜びを味わったりすることができると思う。

次に、思考力、判断力、表現力等においては、単元前半で身に付けた知識・技能を活用しながら、課題を発見したり、課題の解決を図ったり、自分の考えを他者にわかりやすく伝えたりできるようにする。

最後に、学びに向かう力、人間性等では、仲間と協働しながら、学習を援助したり、一人一人の違いを認めたり、分担した役割を果たしたり、健康・安全に気を配ったりできるようにする。

また、現代的なリズムのダンスの価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の観点から捉え、「する」、「みる」、「支える」、「知る」といった多様な関わり方と関連付けることに重点を置く。そうすることが、本校保健体育科の目標とする「運動と豊かに関わる生徒」の育成につながると考え、ひいては学校教育目標に迫ることにつながると考えられる。

3 単元のねらい

(1) 目標

- ア 現代的なリズムのダンスの特性や由来、表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 【知識及び技能】
- イ 踊りなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力, 判断力, 表現力等】
- ウ 現代的なリズムのダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力, 人間性等】

(2) 評価規準

【知識・技能】

○ 知識

- ア 仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わえる運動であることについて、言ったり書き出したりしている。
- イ 様々な文化の影響を受け発展してきたことについて、言ったり書き出したりしている。
- ウ それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。
- エ ダンスはリズムカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて、学習した具体例を挙げている。

○ 技能

- ア 自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しのリズムで踊ることができる。
- イ 軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。
- ウ シンクペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができる。
- エ 短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができる。

【思考・判断・表現】

- ア 提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。
- イ 提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。
- ウ 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。
- エ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けている。
- オ 体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見付け、仲間に伝えている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ア ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。
- イ 仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。
- ウ 踊りの工夫などについての話合いに参加しようとしている。
- エ 一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。
- オ 健康・安全に留意している。

4 ダンス（現代的なリズムのダンス）の特性

(1) 一般的特性

- ア リズムの特徴をいろいろな動きやステップで捉えたり、仲間と一緒に踊ったりすることを楽しむことや喜びを味わうことのできる運動である。
- イ ロックの弾みやヒップホップの縦のりの動きなどの特徴を捉え、体の各部位でリズムをとったり、体幹部（重心部）を中心にリズムに乗ったりして全身で弾みながら踊ったりして続けて踊る運動である。また、それらの変化のある動きを組み合わせる続けて踊る運動である。
- ウ 仲間と一緒に踊って交流することができるため、コミュニケーションを豊かにすることができる運動である。また、リズムカルな全身運動であることから、その動きに関連した柔軟性、平衡性、全身持久力などが高められる運動である。
- エ 使用する道具が少なく、だれもが手軽に楽しむことができるが、床が滑らないか点検したり、筋肉疲労や足首の捻挫等のケガがないように準備運動をしたりするなど、安全に対する配慮を必要とする運動である。

(2) 生徒の側から見た特性

- 仲間と一緒に踊ることができると楽しい。
- リズムに乗って踊れるようになると嬉しい。
- ダンスが得意でないと人前で踊るのは恥ずかしい。
- どのように体を動かせばよいか理解できないとつまらない。

5 生徒の実態【2年5組35名実施 実施日 令和元年12月16日（月）】

(1) 体育の授業は好きですか。

好き	42.9%
どちらかという好き	42.9%
どちらかという嫌い	14.2%
嫌い	0%

(2) 体育で行う運動やスポーツは得意ですか。

得意	14.2%
どちらかという得意	34.3%
どちらかという苦手	34.3%
苦手	17.2%

(3) どの種目が好きで、また、楽しみにしていますか。

バレーボール	34.2%	陸上競技	5.6%
水泳	22.8%	ダンス	3.0%
武道（柔道・剣道）	14.2%	体づくり運動	3.0%
サッカー	8.6%	器械運動	0%
ソフトボール	8.6%		

(4) ダンスは好きですか。

好き	14.3%
どちらかという好き	25.7%
どちらかという嫌い	42.9%
嫌い	17.1%

理由 「好き」、「どちらかという好き」 ・ 友達と協力してできるから。 ・ 音楽に合わせて踊るのも楽しいし、見るのも楽しいから。 ・ 鏡を見て自分の動きをより上手にするのが楽しいから。等 「どちらかという嫌い」、「嫌い」 ・ リズムがつかめないから。 ・ 人前で踊るのが苦手だから。 ・ 柔軟性がないから。等
--

(5) ダンスは得意ですか。

得意	0%
どちらかという得意	28.5%
どちらかという苦手	48.6%
苦手	22.9%

(6) (5)で「どちらかという苦手」、「苦手」と答えた人はその理由を二つ選択しなさい。

人前で踊るのが恥ずかしいから	36.2%
どのように体を動かしたらよいかわからないから	29.8%
覚えることが難しいから	18.5%
体の動かし方が難しいから	14.3%
その他 ・ リズムに合わないことが多い。 ・ 格好よく仕上がらない。	

(7) ダンスの授業ではどのような知識を身に付けたいですか。

リズムに乗った体幹部の動かし方やステップなどの個人の踊り方	37.1%
ダンスによって高まる体力	28.6%
ダンスの特性や歴史	20.0%
隊形の変化や移動などの集団での表現の工夫の仕方	14.3%

(8) ダンスの授業ではどのような技能を身に付けたいですか。

リズムに乗った体幹部の動かし方やステップなどの個人の踊り方	54.3%
全員で同じ動きをしたり、同じ動きを輪唱のようにずらしたりして表現するなどの動きの効果を工夫した集団での踊り方	17.1%
密集したり分散したりして隊形に変化をつけるなど、空間の使い方を工夫した集団での踊り方	17.1%
移動の仕方や方向を工夫した集団での踊り方	11.5%

(9) ダンスの授業で、どのようなことを望みますか。二つ選択しなさい。

思い切り体を動かし、体力を高めたい	33.8%
ダンスに必要な個人技能や表現の仕方を身に付けたい	20.9%
仲間と協力してダンスを考え、達成感を味わいたい	19.3%
仲間と関わったり、意見を伝え合ったりしてコミュニケーション力を高めたい	14.6%
自分や仲間のダンスを見てイメージを膨らませたい	6.5%
ダンスに関する知識を学びたい	4.9%

(10) 体育の授業の中で、仲間の動きを見たり、自分の動きを見てもらったりすることを積極的に行っていますか。

行っている	28.6%
どちらかという行っている	48.6%
どちらかという行っていない	22.8%
行っていない	0%

(11) 体育の授業の中で、仲間の動きの手助けをしたり、アドバイスをしたりすることを積極的に行っていますか。

行っている	20.0%
どちらかという行っている	45.7%
どちらかという行っていない	34.3%
行っていない	0%

(12) 体育の授業の中で、自分のアドバイスによって仲間が上達したり、自分が考えた作戦が成功したりするなど、仲間やチームに貢献した喜びを感じた経験はありますか。「ある」または「どちらかというある」に○を付けた人は、どのような経験だったか教えてください。

ある	20.0%
どちらかというある	22.8%
どちらかというない	48.6%
ない	8.6%

経験 ・ 水泳の授業で、友達にアドバイスをしてお礼を言われたことがある。 ・ バレーボールで人の配置を工夫したらチーム全体のレシーブが上達した。 ・ 球技大会で作戦が成功した。 ・ バスケットボールでシュートのアドバイスをしたら入るようになった。 ・ 柔道で体を崩すコツを教えたら上手になった。等

(考察)

質問1より、85.8%の生徒が体育の授業を好意的に捉えており、体育授業への意欲・関心は高い。しかし、質問2より、苦手だと感じている生徒が51.5%いることから、好意はもっているが、運動に対して自信がもてない生徒もいることがわかった。

質問3・4より、他の種目と比べてダンスに対する関心が低く、「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた生徒が60.0%と半数を超えている。質問5でも、「どちらかという苦手」または「苦手」と答えた生徒が71.5%であることから、苦手意識をもっている生徒も多くいることがわかった。理由として、質問6で、「人前で踊るのが恥ずかしいから」と答えた生徒が最も多かった。このことから、苦手意識の改善を図るために、授業の導入で、音楽に合わせた準備運動や体ほぐしの運動を仲間と交流しながら行うことで、心と体の緊張をほぐし、抵抗なく踊る活動に入っていけるように工夫したい。

質問7・8より、「リズムに乗った体幹部の動かし方やステップなどの個人の踊り方」を身に付けたいと考えている生徒が多い。また、質問9で、「思い切り体を動かし、体力を高めたい」、「ダンスに必要な個人技能や表現の仕方を身に付けたい」ということを望んでいる生徒が多いことから、ダンスに対しての苦手意識はあるが、積極的に体を動かし上手に踊れるようになりたいという願いをもっていることが伺える。このことから、運動時間を十分に確保しながら、リズムの捉え方や体の動かし方をわかりやすく伝えるように指導を工夫したい。

質問10・11より、体育授業の中で、「みる」、「支える」という運動との関わり方について積極的に行っていると捉えている生徒が6割を超えている。しかし、質問12では、仲間やチームに貢献した喜びを感じた経験があると答えた生徒は半数を下回っている。これは、観察やアドバイスはしているが、運動の様相を正しく分析できておらず、その結果、アドバイスする内容が課題の解決につながっていなかったことが考えられる。このことから、生徒一人一人に役割を与え、視点を明確にした観察やアドバイスができるように工夫し、仲間貢献したという喜びを実感できるようにしたい。

以上のことから、本単元では、知識・技能を習得・活用させながら、運動との多様な関わり方を充実させるための学習シートを用いて、仲間と協働しながら課題を解決していく授業を展開し、現代的なリズムのダンスの新たな価値（特性や魅力）を見出させたい。

6 学習・指導の意義

- (1) 心身のほぐしの効果を実感でき、日常生活でも運動に親しむ習慣や態度を養うことができる。
- (2) リズミカルな全身運動を継続して行うことによって、柔軟性、平衡性、全身持久力などを高めることができる。
- (3) リズムに乗って全身で弾んで踊る動きや踊りの工夫などを仲間と試行錯誤する中で、課題に応じて練習を工夫したり、表現の仕方を理解したりすることで、体育学習全般における資質・能力を高めることができる。
- (4) 互いに助け合い、教え合いながら練習を行う中で、自己の役割を果たしたり、よりよい人間関係を築いたりすることで、学校生活や社会生活において望ましい行動の仕方や態度を培うことができる。

7 学習指導上の方針・方策

(1) 「運動と多様な関わり方をする三つの活動」を取り入れた学習過程の工夫

運動と豊かに関わる生徒を育成するために、「運動と多様な関わり方をする三つの活動」を単元の後半段階に計画的に取り入れる。具体的には、「捉える活動」、「つなげる活動」、「見出す活動」の三つの活動を段階的に学習させる中で、「する」、「みる」、「支える」、「知る」といった多様な関わり方を充実させ、新たな価値（特性や魅力）を見出させるようにする。また、それらの活動をより効果的なものにするために、課題解決学習の過程を一単位時間と限定せず、複数単位時間の計画にすることで、つながりのある授業を展開する。「捉える活動」にあたる場面を「アナライズステージ」、「つなげる活動」にあたる場面を「シナリオステージ」、「見出す活動」にあたる場面を「パフォーマンスステージ」として設定し、それぞれの活動を充実させるために学習シートを活用する。

(2) 三つの学習シートを用いた指導の工夫

ア 「捉える活動」を充実させるアナライズシートの活用

運動との多様な関わり方の中でも、特に、「みる」、「知る」といった関わり方を充実させるために、自己や他者を効果的に分析することができるように工夫する。具体的には、四つの視点（個の動きの工夫、動きの効果の工夫、広がりのある空間の使い方、群で動く効果）の担当に分かれて、自グループによる自己分析と、他グループからの観察による他者分析を行わせ、気付いたことや課題等をアナライズシートに記録させる。詳細はP保体15で説明する。

イ 「つなげる活動」を充実させるシナリオシートとシナリオボードの活用

運動との多様な関わり方の中でも、特に、「支える」といった関わり方を充実させるために、分析結果を基に、グループで踊りの工夫を行う。具体的には、四つの視点の担当者が中心となって、踊りを考えさせる。その後、それぞれの意見をもち寄り、グループで踊りを決定させていく。その際、グループ全体が理解しやすいようにシナリオボードを効果的に活用させ、踊りの検討や修正を視覚的に捉えさせながら、動きのイメージをもたせやすくする。また、考え出したことを、シナリオシートに記録させる。詳細はP保体17、20で説明する。

ウ 「見出す活動」を充実させるパフォーマンスシートの活用

新たな価値（特性や魅力）を見出させるために、パフォーマンスシートを用いて振り返りを行う。具体的には、ダンス発表会の後に、学習したことを想起しながら、現代的なリズムのダンスの楽しさや面白さ・魅力とは何かを考えさせ、記述させる。その後、記述したことを仲間と共有させることで、お互いの考えや思いに共感したり、新たな価値観に気付かせたりして、現代的なリズムのダンスの新たな価値（特性や魅力）を見出すことができるようにさせる。詳細はP保体22で説明する。

(3) その他の指導の工夫

ア オリエンテーションにおいて、現代的なリズムのダンスへの関心を高めさせるために、ダンスの映像を鑑賞させたり、特性や歴史に触れさせたりする。

イ 心も体も解放して全身で弾んで踊ることができるようにするために、導入段階で体ほぐしの運動や、リズムに合わせた運動を行わせる。

ウ 段階的・系統的に学習を進めるために、学習過程を「オリエンテーション」、「いろいろな動きを身に付ける段階」、「集団で動きを工夫する段階」、「まとめの段階」の四つに編成し、合計13時間の学習に取り組ませる。また、単元の後半段階である「集団で動きを工夫する段階」と「まとめの段階」を、さらに、7-(1)で説明した三つのステージ（アナライズステージ、シナリオステージ、パフォーマンスステージ）で編成する。

エ グループを「支える」という実感がもてるようにするために、四つの視点（個の動きの工夫、動きの効果の工夫、広がりのある空間の使い方、群で動く効果）の担当に分かれ、中心となって踊りの工夫を考えたり、他グループとのアドバイス活動を行わせたりする。

オ 健康や安全については、十分に配慮できるように、確認の場を設けるとともに、生徒が相互に健康・安全に気を付けられるように、単元を通して声掛けをしていく。

8 単元指導計画と評価計画

段階	時間	学習内容	評価計画
オリエンテーション	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション 「知る」 <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンスの歴史、特性、用語や名称、安全面の注意事項、単元の見通しなどを理解する。 ・ 関連して高まる体力について知り、補助運動を行う。 	1知 ダンスは、様々な文化の影響を受け発展してきたことについて、言ったり書き出したりしているか。 1知 ダンスはリズムカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて、学習した具体例を挙げているか。
いろいろな動きを身に付ける段階	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムに乗って踊る 「する」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体の各部位でリズムをとったり、体幹部でリズムに乗ったりして全身で弾みながら踊る。 	2主 ダンスの学習に積極的に取り組もうとしているか。 3主 健康・安全に留意しているか。 4技 軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができるか。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 変化のある動きを組み合わせ続けて踊る <ul style="list-style-type: none"> ・ シンコペーションやアフタービート、休止や倍速などのリズムの変化を付けて踊る。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短い動きを繰り返す、リズムの変化を加える、動きを組み合わせるなどをして踊る。 	
集団で動きを工夫する段階	5	<ul style="list-style-type: none"> 【アナライズステージ】 捉える活動 「する」、「みる」、「知る」 ○ 群での動きの工夫の仕方を理解する <ul style="list-style-type: none"> ア 個の動きの工夫 (オリジナルの動きを取り入れる、テンポに変化をつけるなど) イ 動きの効果の工夫 (シンメトリー、アシンメトリー、ユニゾン、カノン、リフトなど) ウ 広がりのある空間の使い方 (バラバラに、整然と、円で密集して、グループごとに、直線的に、曲線的になど) エ 群で動く効果 (渦状に、バラバラに、横に、前方に、奥から前へ、その場で自転、斜めになど) 	5思 体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見付け、仲間に伝えているか。 5主 簡単な作品創作などについての話合いに参加しようとしているか。 6思 提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいるか。 6主 一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしているか。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 四つの視点（ア～エ）ごとに、工夫の仕方を考えたり観察したりする担当者を決める ○ 各グループで取り入れる工夫の仕方を考える <ul style="list-style-type: none"> ・ これから踊るダンスや曲にどのようなよさや特徴があるのか分析する。 ・ 自分たちがどのような表現にしたいのかが伝わるような工夫の仕方を考える。 ○ 工夫を取り入れた踊りの練習を行う 	7技 自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しのリズムで踊ることができるか。 7思 提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えているか。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他グループと踊りを見せ合い、気付いたことを伝え合う <ul style="list-style-type: none"> ・ 踊りを「みる」ことについての楽しさを味わうとともに、これまでの知識や技能を活用して、気付いたことを他グループに伝える。 ・ 自グループの踊りを観察してもらい、アドバイスをもらうことで、自己の中に新しい工夫の仕方について「知る」。 ○ 自グループによる分析、他グループによる分析はアナライズシートにまとめる 	
まとめの段階	8	<ul style="list-style-type: none"> 【シナリオステージ】 つなげる活動 「する」、「支える」 ○ 分析した内容や課題を基に、踊りを練り直す <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの目指す踊りがより伝わるにはどのように工夫したらよいかを、四つの視点（個の動きの工夫、動きの効果の工夫、広がりのある空間の使い方、群で動く効果）の担当に分かれて考え、自己の意見でグループの踊りづくりを「支える」。 ・ シナリオボードを効果的に活用し、仲間と動きのイメージを共有しながら踊りの検討や修正を行う。 	8思 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えているか。 9思 提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えているか。 9主 仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしているか。
	9		10知 それぞれのダンスには、表現の仕方の違いがあることについて、学習した具体例を挙げているか。 10技 シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができるか。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ シナリオシートにまとめる 	11思 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けているか。
12	<ul style="list-style-type: none"> 【パフォーマンスステージ】 見出す活動 「する」、「みる」、「支える」、「知る」 ○ 踊りを仕上げる ○ 踊りを発表し合う ○ パフォーマンスシートを用いて振り返りを行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を振り返って見出した、楽しさや面白さ・魅力を記入する。 ・ 仲間と意見を共有し、現代的なリズムのダンスの新たな価値を見出す。 	12思 提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えているか。 13知 ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしているか。 13技 短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができるか。	
13			

9 授業の実際 (9/13)

(1) ねらい

ア それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。

【知識】

イ シンクペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができる。

【技能】

ウ 提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。

【思考力、判断力、表現力等】

エ 仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 学習過程

学習過程	時間	学習内容及び学習活動	○留意点●援助・支援★研究の手立て	
準備運動 補助運動	1	はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用具確認、練習場、その周辺の安全確認を行う。 ○ 出欠・健康状態の確認、見学者への指示を行う。 	
	2	準備運動 1		
	3	補助運動 2		
学習課題の確認	5	<p>学習課題の確認</p> <p>他グループからの気付きを生かして、ダンスをよりよくするにはどのように工夫したらよieldろうか。</p> <p>確認</p> <p>本時の課題を確認し、学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントを意識した動きができるように、アドバイスをしながら行わせる。 ○ 体と心をほぐし、開放的に体を動かせるようにする。 <p>● 学習の見通しをもたせるための板書の活用</p>	
相互練習	29	<p>相互練習</p> <p>【Step 1 (シナリオの確認を踏まえた踊り込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に決めた、特に観察してもらいたい箇所である「Watching Point」を中心に、シナリオを確認しながら、各グループで踊る。 <p>★①【Step 2 (他グループからの観察とアドバイス活動)】</p> <ul style="list-style-type: none"> AグループをCグループが、BグループをDグループが「Watching Point」を中心に観察し、各担当者が気付いたことを、付箋に記入する。 A-CとB-Dグループが入れ替わり、同じように観察を行い、各担当者が気付いたことを、付箋に記入する。 同じ担当者同士で、シナリオシートと付箋を交換する。 <p>★②【Step 3 (踊りの練り直し)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他グループが気付いたことを記入した付箋をシナリオボードに貼り、踊りをどのように工夫していくかを話し合う。 踊りを練り直しながら練習する。 隊形や移動の仕方などを、シナリオボードを用いて検討する。 <p>学習成果の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 練り直した踊りを実際に踊り、成果を確認する。 <p>本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時で変更した動きについて、シナリオシートに修正を加える。 他者からの気付きを生かし、どのように工夫したのかを発表する。 <p>(まとめにおける生徒の発言例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニゾンの場面が多いことで逆に一体感が伝わりにくいというアドバイスをもらったので、カノンで少しずつ踊る人数を増やし、最後全員で踊るように工夫した。 隊形が狭いので広がったほうがいいというアドバイスから、それぞれの立ち位置を決めてバランスよくなるように工夫した。 <p>など</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ内の役割分担が、生徒も教師も把握しやすいように、色つきのゼッケンを着用させる。 ● より明確に観察するための役割分担の決定 <p>★①: Step 2での観察場面</p> <p>前時までに考えた踊りの構成を記入した『シナリオシート』の中に、アドバイスをもらいやすくするための『Watching Point』を示すことで、観察者の「支える」という関わり方を充実させる。</p> <p>● 他者からの意見を可視化できる付箋の活用</p> <p>★②: Step 3での練り直し場面</p> <p>隊形や移動の仕方を可視化しながら検討や修正をさせたり、動きのイメージをもちやすくするために『シナリオボード』を活用させる。また、『シナリオボード』に、知識を活用して、よりよい解決を図りやすくするために群の動きの工夫例を掲示することで、「支える」という関わり方を充実させる。</p> <p>● 次時につなげるためのICT機器の活用</p>
	4	<p>学習成果の確認</p> <p>診断</p>		
	4	<p>本時のまとめ 6</p>		
課題把握	1	<p>次時の課題把握 7</p> <p>次時の課題把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 撮影した映像を活用しながら、練り直していくことを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時の活動について触れ、学習に対する見通しをもたせ学習意欲を高める。 	
整理運動	1	<p>整理運動 8</p> <p>おわり</p> <ul style="list-style-type: none"> 手足を中心にストレッチングを行う。 あいさつ 用具の後始末 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ストレッチングを行う中で、身体の調子、ケガはないかを確認させる。 ○ 用具の後始末の確認をさせる。 	